

医療公開講座のお知らせ ◆◆◆

当院では毎月『医療公開講座』を開催しています。
病気、お薬、食事、運動、医療費など、
様々な内容で少しでもみなさまのお役に立ちたいという思いから情報発信しています。

今後も下記の日程・内容で講座を行いますので、
みなさまふるってご参加ください。

日付	内容	講師
平成28年1月29日(金) 15:00~16:00	認知症予防について	リハビリ科 主任 伊藤 勝
平成28年2月10日(水) 14:00~15:00	形成外科とは?	形成外科 医長 安嶋 康治
※2月10日の医療公開講座は、春日部駅近郊にある「ふれあいキューブ」で開催予定です。 会場は150名入ることができ、当日は看護師などによる健康相談コーナーも同時開催予定です。		
平成28年2月25日(木) 15:00~16:00	薬を安全に服用するために必要なこと	薬剤部 副主任 森山 雅史

IMSグループからのお知らせ

医療・介護のことでお悩みはありませんか?

IMSグループIMS総合サービスセンターが、みなさまからの医療・介護のご相談をお受けいたします。
詳しくはホームページをご覧ください。

来訪もしくは、お電話かホームページ[メールフォーム]よりお問い合わせください。

FREE 0800-800-1632

03-3989-1141 (代表)

※「050」からはじまるIP電話および国際電話からはご利用いただけません。

IMS総合サービスセンターのサービス内容や、IMSグループの最新情報をご覧いただけます。

<http://www.ims.gr.jp/gscenter/>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-21-11 オーク池袋ビルディング8F

編集後記

新年あけましておめでとうございます。
皆さまはどのようにお過ごしになられましたでしょうか。どこか旅行に行かれたり、
家でゆっくり過ごしたり、それぞれの時間を過ごされたかと思います。
今年も皆さまにとって良い年になることを心から願っております。まだまだ寒い日が続きます
ので、どうぞお体には気をつけてお過ごしください。本年も春日部中央総合病院をよろしくお願
い申し上げます。

地域医療連携室

IMSグループ 医療法人財団 明理会

春日部中央総合病院

〒344-0063 埼玉県春日部市緑町5丁目9番4号
TEL.048-736-1221 FAX.048-738-1559
<http://www.kasukabechuo.com>

認定施設 厚生労働省臨床研修指定病院/日本医療機能評価機構認定病院/日本内科学会認定医制度教育関連施設/日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設/
日本消化器病学会専門医制度関連施設/日本循環器学会認定循環器専門医研修施設/日本心血管インターベンション治療学会研修施設/日本不整脈学会・日本心電
学会認定不整脈専門医研修施設/腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設/胸部大動脈瘤ステントグラフト実施施設/日本外科学会外科専門医制度修練施設/
日本消化器外科学会専門医制度修練施設/日本整形外科学会専門医研修施設/日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練施設/日本泌尿器科学会認定専門医
教育施設/日本透析医学会専門医制度教育関連施設/日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設/日本麻酔科学会麻酔科認定病院/看護大学・専門学校実習病院

IMSグループ 広報誌 プラザイムス



IMSグループは、患者さま、ご家族のみなさまに院内やIMSグループの医療活動、病気に関する情報を伝えするコミュニケーションペーパーです。

昔ながらの医療 —往診—

春日部中央総合病院

「プラザイムス」は、患者さま、ご家族のみなさまに院内やIMSグループの医療活動、病気に関する情報を伝えするコミュニケーションペーパーです。

「在宅医療」という言葉を、ご存知でしょうか。簡単に言うと通院が困難な患者さんのための往診のシステムです。高齢者や歩行障害のある方々、また癌で緩和医療を受けている患者さんが、混雑した病院で順番待ちを強いられることなく、医師や訪問看護の往診により診療を受ける方法です。今日本では10万人以上が在宅医療を受けています。

今後は高齢化社会が益々進む一方、厚生省の医療費削減の施策である「医療必要度の少ない患者は在宅で」という方針のもと、以前のように高齢であるから、世話をする家族がないからという理由では、入院ができなくなっています。しかしこれでは核家族が増えるなか身体の動かせない患者さん達は益々取り残されてしまいます。「在宅医療」はこのための今後期待される新しい診療形態であります。現在春日部中央総合病院は2名の内科医と1名の緩和医療医、さらに春日部ロイヤル訪問看護ステーションと連携を取り「在宅医療」を展開しています。

在宅診療により家庭での点滴や酸素投与、さらに装着せざるを得ない様々なチューブの管理まで行えるようになりました。遠い昔は、皆が最期は自分の家で迎えていました。そういうことがなかなかできなくなつた現代社会においても、家族と長い時間接しながら穏やかに最期を迎えることが不可能ではなくなってきています。「在宅医療」は今後さらに必要性を増すシステムと考えています。しかしこれには当然家族の負担が伴います。介護保険や医療保険で医師、看護師、ヘルパーが定期的に訪問するにしても、ほとんどは家族との時間になります。家族には仕事もあります。患者以外の家族もいます。介護度の高い患者を自宅で診てあげることは容易なことではありません。

当院では、そのような患者さん(社会的理由でも入院が望ましい患者さん)のための医療相談窓口を設けスムーズな入院ができるようにも図ってまいりたいと思っております。家庭での療養を望む患者さん。家庭で世話をあげたいご家族。療養入院を好まれる患者さん。いろいろな事情で家庭で診てあげられないご家族。それぞの要望は十人十色で厚生労働省の枠組みだけでは決められません。春日部中央総合病院は高齢化社会に向け様々な要望にお応えできるよう、本年も頑張ってまいります。どうぞよろしくお願いします。

院長 松田 実

インフルエンザについて...

例年11月～4月にかけて猛威を奮うインフルエンザ。
皆さまは、インフルエンザがどのようなものかご存知でしょうか?

インフルエンザとは…

インフルエンザウイルスによって引き起こされる感染症です。2009年の冬までは、2つのA型インフルエンザ(香港A型とソ連A型)とB型インフルエンザ、あわせて3つのインフルエンザが流行していました。これらをまとめて季節性インフルエンザといいます。2009年春からはそれらに加え新型インフルエンザが流行し、世界中に広がりました。季節性インフルエンザは、主に冬場に流行していましたが新型インフルエンザは夏場にも流行しています。

インフルエンザの症状は?

インフルエンザにかかると38℃以上の急な発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、倦怠感などの全身症状が強く現れ、あわせて鼻水、咳、喉の痛みなどの症状も見られます。高齢の方、何らかの基礎疾患を持つ方、妊娠中の方、乳幼児がインフルエンザにかかると、気管支炎、肺炎などを併発し、重症化し最悪の場合は死に至ることもあります。特に新型インフルエンザはその危険性が増します。

インフルエンザの予防

最大の予防法は、流行前にインフルエンザワクチンの接種を受けることです。ワクチンの接種で、インフルエンザに感染にくくなりますし、かかったとしても軽い症状ですむことが証明されています。

日常生活における予防法は?

- 人ごみを避け、外出時にはマスクを着用。
- 帰宅時には「手洗い」「うがい」。
- 栄養と休養を十分にとる。
- 室内では加湿と換気をよくする。



インフルエンザの潜伏期間は長いと1週間だと言われています。

1週間以内に感染している人に接触した場合、もしかしたらあなたもインフルエンザになっているかもしれません!
おかしいなと思ったら早めに医療機関を受診して適切な治療を受けるようにしましょう。

check

大腸がん危険度チェック

近年大腸がんと診断される人が増えています。原因ははっきりとわかってはいませんが、食生活の欧米化により増加傾向にあると考えられています。大腸がんのリスクとなる項目に、あてはまるものがないかチェックしてみましょう。

1.運動不足である

毎日合計60分歩く程度の運動をしていない方



2.お酒をよく飲む

日本酒なら1合以上

ビールなら大瓶1本以上

焼酎や泡盛なら1合の2/3以上

ウィスキー・ブランデーならダブル1杯以上

ワインならボトル1/3程度以上

3.肉やハム、ソーセージをよく食べる

一週間に500g以上食べる方



4.肥満である

BMI(体重(kg)÷身長(m)÷身長(m))で男性は27、女性では25を超える方

5.喫煙(タバコを吸う)

1日に1本でも吸っていれば該当

6.近親者(親・兄弟)に大腸がんの人がいる

7.野菜や果物をあまりとらない

8.糖尿病または糖尿病予備軍である

*1から5の質問の中で3つ以上当てはまる方は特に注意が必要。

*チェックの数が多くあてはまる方はリスクが高い可能性があると考えられます。

*気になる方はご受診をおすすめします。

お薬の保管について

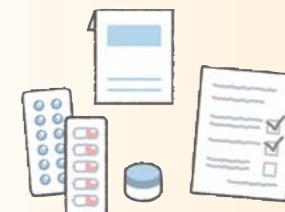
家に持ち帰ったお薬は普段どのように保管されていますか?
今回はお薬の正しい保管方法についてお伝えします。



1

高温・多湿・直射日光を避けて保管する

お薬には光や温度、湿度などによって効能が落ちるものが多くあります。一般的な室温保存のお薬の保管温度は30℃以下とされていますので、高温・多湿を避け直接日光があたらないところに置きましょう。冷蔵庫に入れると、取り出したときに室温との急な温度差で湿気を帯びる恐れがあるため、冷所保存以外のお薬は室温で保管することが基本です。



2

冷所保存のお薬は冷蔵庫に保管



冷蔵庫で保管する「冷所保存」のお薬には、主にシロップ剤や坐薬、一部の目薬、未開封のインスリンなどがあります。ただし、このとき凍らせないように注意してください。



3

お薬以外のものと区別し、子どもの手の届かないところに置く

食品、殺虫剤などと一緒に置いておくと、間違って飲んでしまう危険があります。それを避けるために、救急箱や薬置き場など、お薬だけを保管する場所を決めましょう。また、お薬は個人ごとに区別してまとめておくと、誤飲の防止につながります。

また、子どものお薬の誤飲事故は非常に多いため、手の届かないところに置くことが大切です。



4

使用期限を守る

お薬には使用期限があります。一般用医薬品の場合は、外箱に使用期限が記載してあるので、それを確認してください。ただし未開封の場合の期限なので、開封後は早めに使いましょう。病院などで処方された医療用医薬品の場合、医師が診察時の患者さまの体調や症状などに合わせて処方したものですから、医師の指示通りに最後まで服用してください。残ったからといって、あとで同じような症状の時に使ったり、他の人にすすめたりしてはいけません。継続して飲んでいるお薬でたくさん残っている場合は、医師や薬剤師に伝えて、処方日数を調整してもらいましょう。



医師ごあいさつ



糖尿病やホルモンの病気の診療を行っております原田と申します。
この度、春日部中央総合病院で勤務することとなりましたので、ご挨拶させて頂きます。

糖尿病は様々な合併症を引き起こす厄介な病気ですが、コントロール次第で合併症を防ぐこともできます。今後は入院治療も可能となりましたので、食事療法や数週間でのインスリン調整などにも対応できます。

また、甲状腺などのホルモンの病気(婦人科系は除きます)も診療致しますので、どうぞ受診にいらして下さい。

糖尿病代謝内科 原田 剛史